

# 令和3年度 学校経営方針

江東区立第三砂町中学校長 松本 久

## 1 学校教育理念

- (1) 「入ってよかった(生徒)・通わせてよかった(保護者・地域)・勤めてよかった(教職員)三砂中」  
～ 子どもの幸福を第一に考え、そのための教育を実践する学校経営に努める ～
- (2) 「授業の三砂中」「行事の三砂中」「部活動の三砂中」の体現  
～ 学力の向上、行事の充実、高め合う集団づくりをめざす ～
- (3) 「チーム三砂中」(教職員)  
～ 教師一丸、組織的な対応 ～

## 2 学校教育目標(目指す生徒像)

主体的に学び続ける習慣と、深く考え正しく判断できる能力を養い予測困難な社会に適応し、活躍できる人材の育成を目指し、次の目標を設定する。

- (1) たくましく、ねばり強い人  
～ 心身ともに健康でたくましく、ねばり強くやりとげる生徒 ～
- (2) 思いやりのある、温かい人  
～ 自他を敬愛し、相手の立場に立って物事を考えることのできる思いやりのある生徒 ～
- (3) 誠実で、礼儀正しい人  
～ 進んで挨拶をし、その場に合った適切な言動がとれる生徒 ～
- (4) 深く考え、よく学ぶ人  
～ 学ぶことに興味や関心を持ち、自ら進んで学習に取り組み、課題の解決や探求にあたる生徒 ～

## 3 目指す教職員像

保護者や地域の期待に応え、学校組織の一員としての自覚と責任をもつ。  
学校経営方針の実現を目指し、教育課程の計画的な実践に全力で取り組む。

- (1) 向上力をもった教職員  
自己研鑽に励み、各々が専門性を高めて取り組むことができる。
- (2) 組織的に対応できる教職員  
組織の一員として、学校経営計画に基づいて活躍することができる。
- (3) 誰からも信頼される教職員  
教育公務員としての使命を自覚し、全体の奉仕者として職務を全うすることができる。

## 4 目指す学校像

友達や教師に認められ、大切にされることで、生徒一人一人が存在感・所属感・充実感を味わい、楽しく生活することを通して、安心感や信頼感が醸成される学校とする。そのために、全教職員は、学校像実現のために全力を傾注する。

- (1) 生徒が毎日通いたい学校  
生徒が安心して生活できる環境及び学習環境を整備し、魅力ある授業や行事、部活動等を通して、毎日の登校を楽しみにする学校にする。  
わかる喜びと学ぶ楽しさを味わえる場にする。(学習指導の充実・学力の保障)
- (2) 保護者に信頼される学校  
情報発信を積極的に行って開かれた学校づくりを推進し、保護者との信頼関係に基づいた学校教育を進める。
- (3) 地域社会から愛される学校  
地域の教育力を取り入れ、地域行事やボランティア活動に積極的に参加する生徒を促し、地域に密着した取組を行う。

## 5 教育目標を達成するための基本方針

- (1) 全教育活動を通して、「こうとう学びスタンダード～ネクストステージ～」の定着を目指すとともに、二学期制をいかし、ゆとりのある指導計画を作成し、「知・徳・体」のバランスのとれた教育を実践する。
- (2) 一人一人の生徒を大切に、個性を伸ばす教育を実践する中で、困難を乗り越える力や、自ら学び考え行動する力を育成し、自己肯定感を高めていく。
- (3) 普段の学校生活の中で、人権教育及び道徳教育を推進し、挨拶や正しい言葉遣いを励行しながら、互いを認め合い、助け合う豊かな人間関係を築く。
- (4) 特別支援コーディネーターを中心に特別支援教育を推進し、個々の生徒に対応した指導方針に沿って丁寧な相談を実施すると共に、諸機関と連携しながら、いじめや不登校の防止と減少に努める。
- (5) 豊かな人間性を育む教育を推進し、「体力スタンダード」をもとに、個々の生徒に対応した健康・体力の保持増進を図る。また、国際社会の中で共に生きる資質として大切な、自らを律し責任感や正義感をもって、他の人と喜びを共有できる豊かな人間性と国際性を養う。
- (6) 「Challenge Wednesday」を活用し、生徒には自らの課題や興味関心に基づく自習学習や、PCを活用した学習のハイブリット化を図る。また、図書館を活用、地域の活動や習い事など、主体的に活動するように働きかけていく。教師には、研究に取り組む時間を確保し、授業の資質向上やICT化を促進すると共に、定時退勤や有給休暇取得を促し、働き方改革を促進する。
- (7) 部活動は、江東区のガイドラインに沿い、実施計画を立て、計画的に実施する。
- (8) 感染症予防ガイドラインをもとに、感染症対策に留意した各教科の指導と衛生管理を徹底する。行事については密を避け、換気に十分注意して実施する。また、オンラインも活用する。
- (9) 一人一台の情報端末を活用した新しいまなびのスタイル（KOTOスタイル）を教育活動全体で実践し、授業のハイブリット化を進め、個別最適化の学習から個々の生徒の自己肯定感を高める。
- (10) 連携教育の日を通して、こどもの実態を把握し、共通理解のもとで「こうとう学びスタンダード～ネクストステージ～」の実現を図る。また、職業体験や地域ボランティアで、地域を愛する心を育てると共に、ネット配信により保護者・地域への一層の理解を求め、さらに、「三砂中支援の会」や地域の人材等の協力を得て、専門性を生かすことにより、教育の充実を図る。

## 6 特色ある教育活動

- (1) 予測不能な社会に対応できる人材の育成のため、PCを積極的に活用しながら、SDG 'S'をベースに、情報を収集し、自ら課題を見つけ、学び、他者と協働しながら解決していこうとする、主体的・対話的な深い学びをすべての教育活動で育んでいく。
  - ①PCを活用し、朝や帰りの連絡、オンライン教材を活用した朝学習、さらに委員会や部活動の連絡など、1日を通してオンラインによる情報の伝達を実施し、情報活用能力を高める。
  - ②体験的な学習の時間において事前学習から事後学習まで、ICTを積極的に活用し、情報の収集から、行動計画、学習のしおりの作成、そして体験のまとめとパワーポイントによる発表、そして作文を実施する。第1学年は「下町歴史ウォーク」、第2学年は職業体験・「横浜散策」、第3学年は「修学旅行」「高校訪問」を実施する。
  - ③生徒の企画・運営を尊重した、生徒朝礼や学校行事等を開催させることで、生徒が自主的に活動する能力を育成する。
  - ④落ち着いた学校生活をスタートさせ、豊かな心や考える力を育てる読書活動を推進する。
- (2) 保護者・地域社会の人々に本校の教育を一層理解していただくと共に、期待や要望の把握に努める。また、学校と家庭・地域とが連携して、生徒の健全な育成を図るために以下の事柄に努める。
  - ①授業参観や運動会・文化祭をはじめ生徒の日頃の成果にかかわる発表会を公開し、本校の教育を理解していただく機会を増やし、相互に協力し合える学校を作っていく。
  - ②教職員・保護者による内部評価に加え、生徒による授業評価をもとに、学校評議員・保護者による学校関係者評価を行い、学校教育の改善に生かしていく。
  - ③地域の人や国際社会に生きる人等をゲストティーチャーとして招き、専門性を生かすことによって学習の意欲・関心を高めるとともに発展的な学習の展開を図る。
  - ④基礎学力の習得や、主体的に学習に取り組む態度を育成するために、「三砂中支援の会」と協働し、放課後や土曜日を活用した補習教室や、各種検定教室・図書室開放、推薦試験対策を実施する。

## 7 今年度の重点目標

### (1) 人権尊重を基盤とした学校づくりを一層推進させる。

①特別支援教室「つばさ教室」の開設、不登校生徒相談など、個々の生徒の特性に応じた指導方法を工夫し、それぞれの教育的ニーズに応える。

※特別支援教室「つばさ教室」の活用及び、特別支援教育巡回指導の実施を踏まえ、情緒障害、自閉症、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)などの障害のある生徒の「困難さ」を理解し、全ての教員が特別支援教育に関する知識や配慮事項等の正しい認識を深め、組織的に対応できる力を高める。

※特別支援教室「つばさ教室」が生徒のライフスキル向上の場となるよう、一人一人の教育ニーズに応じて、保護者・関係機関の協力のもと、適切な指導・支援体制を確立する。

②「いじめ」の根絶を目指し、「ふれあい月間」期間中に生徒会を中心とした「いじめ防止標語コンクール」等を企画させ、生徒が主体的にいじめ防止に取り組む活動を推奨する。

③男女平等(男女混合名簿の使用)、個人の尊厳、多様性を認め合う人権意識を育て、共生を目指す生徒を育成する。

### (2) 新学習指導要領の実施に伴い、授業改善に取り組み、学力向上を図る。

①「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」、「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)」という三つの視点を重視し、各教科、領域で身に付けるべき資質・能力の育成を図るため授業改善に取り組む。

②「主体的・対話的で深い学び」「見通しを立てたり、振り返ったりする学び」「PC・ICTを積極的に活用した学び」等を積極的に反映させた授業づくりに取り組み、生徒の学力の一層の定着・向上に努める。

※言語活動を活発化させ、論理的思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を向上させる。

※PC・ICT機器を活用した授業改善に積極的に取り組み、情報活用能力を身に付けさせる。写真、図版、動画等を活用しながら学習意欲を向上させ、主体的、協働的学びを充実させる。

### (3) 教師の指導性と生徒の自主性・主体性が調和した「分かった」「できた」を実感できる授業を創造する。

①指導方法・指導体制の工夫改善を図り、問題解決的な学習、体験的な学習など主体的な学習の充実に努め、生徒の学習意欲や思考力・判断力・表現力を育成する。

②一時間一時間の指導目標、評価の視点が明確な授業を行い、日々改善に努める。

③基礎学力の定着に基づく読み・書き・計算、聞く・話すことを重視した指導を実践する。

④個の指導や補充・発展的な指導の充実に努める。

⑤加点的な見方に立つ肯定的な評価で生徒の変容を認め、促す指導を実践する。

### (4) 健康で、安全・安心な学校運営を推進するために、教職員が一丸となって命を守る教育を推進する。

新型コロナウイルス感染症への対応において、生徒が安全にかつ健康な状態で教育を受けることが出来るよう、学校として「今、何ができるのか」を真剣に考え、教職員が一丸となって、生徒の利益が最大限に守れるように対処する。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>①危機管理体制の確認</li><li>②生徒及び保護者への迅速かつ正確な情報提供</li><li>③学校内での感染拡大防止のための措置</li><li>④児童生徒等・教職員への予防措置のための指導の徹底</li><li>⑤学校運営体制、生徒の学習支援体制</li><li>⑥授業の確保</li><li>⑦給食の措置</li><li>⑧感染予防・感染拡大防止のための物品の活用</li><li>⑨人権上の留意事項についての啓発</li></ul> |
|--|

### (5) ライフ・ワークバランスを推進する。

①ガイドラインに沿った部活動を実施し、教員・生徒の健康を維持する。

②校務システム(C4th)を有効活用した働き方改革を推進する。

## 8 江東区の特徴ある教育について

- (1) 「こうとう学びスタンダード～ネクストステージ～」を身に付けさせるために、調査結果を前年度と比較して克服すべき課題を明確化、共通理解した上で「学びスタンダード推進委員会」が中心となり、全教員で課題克服に努める。特に「姿勢」については、授業や全校・学年集会などの機会に指導し、改善に努める。
- (2) 保幼小中との連携は、「連携教育の日」を中心に、互いの校種の特徴・長所を学び合い、児童・生徒への指導の過程を理解した上で、生徒一人一人の健全育成に努める。
- (3) 国語科を中心にした俳句教育では、四季折々の景物や学校行事などをテーマにした俳句を作ることで、豊かな感性、日本の伝統や文化を大切にすることを育てる。
- (4) 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、アスリートの講演会等の機会を通して、スポーツを身近に感じ、体力の向上、異文化や障害のある人に対するさらなる理解、ボランティア精神を培う。また、全生徒が大会を観戦することによって、終了後はレガシーとしてスポーツを楽しむ態度を育成する。